

授業から広がった可能性

中央大学 商学部会計学科3年 菅原 祐司

私は、小さい頃からそろばんを習っていました。そのそろばん教室で、「公認会計士」という職業があると知り、興味を持ち始めました。その頃は、公認会計士がどういう職業なのか、まったく知りませんでした。公認会計士を目指すための導入として簿記というものがあると知りました。そこで、簿記を学んでから将来に就くべき職業を決めようと思うようになり、中学生時代に、簿記が学べる商業高校に入学しようと考えました。そして希望通りに、横浜市立横浜商業高校（Y校）に入学しました。

高校に入学してからは、授業で簿記を学習していました。決して早いペースとはいえないですが、先生が一つひとつ丁寧に簿記を教えてくださいました。その結果、日商簿記検定の3級は高校1年の11月に合格することができました。そして、高校2年の7月に全国高等学校簿記選手権大会の新人戦に出場し、南関東大会優勝（全国12位）という成果を出すことができました。また高校2年の11月に、日商簿記2級に一発合格することができました。

高校2年の頃に教わった簿記の授業は進度が速く、7月には2級の勉強が終わってしまっていたので、夏休み頃から日商簿記1級の取得を考え始め、専門学校が主催していた高校生対象の無料講習にも積極的に参加していきました。日商簿記2級が終わった11月からは、1級に向けて週3回、高校の簿記の先生主導により、朝の授業前に約1時間の勉強をしました。5人程の少人数で行っていたので、友達同士で楽しく勉強することができました。しかし所属していたワープロ部の活動もあり、授業前の「朝練」の他に簿記の勉強時間を割けなかったため、日商簿記1級に確実に合格することが出来るレベルには到達できませんでした。ところが、高校3年の6月に試しに1級を受験したところ、運良くこれに合格することができました。その勢いで簿記選手権全国大会の「日商1級部門」で優勝したときには、本当に

驚きました。

高校3年の夏休み前まで、高校卒業後の進路に迷っていました。大学に進学するか、専門学校に行き公認会計士を本気で目指すかどちらか迷っていましたが、大学に行った方が一般教養も身に付き、公認会計士になってからも仕事がしやすいとの高校の先生からの助言もあり、大学に進学することに決めました。今から考えてみれば、この先生の助言があったからこそ、大学で本気で勉強することができ、今の自分があるのだと思います。進学先は、公認会計士の合格者を多数輩出している中央大学を目指すことを決めましたが、高校時代は進学クラスに所属していなかったこともあり、指定校推薦は採れず、自己推薦で受験することになりました。中央大学の自己推薦入試は、英語・小論文・面接と私が苦手とするものばかりでしたが、「朝練」に参加していた友達と一緒に勉強しました。そして実際に入試を受けてみると、なかなか感触が良く、無事に合格することができました。

私は中央大学に入学すると同時に、「経理研究所」という所にも入りました。経理研究所とは、中央大学内で公認会計士の勉強をすることができる、学内専門学校のような存在のものです。高校生の時に、どんな財務諸表があるかという程度は勉強できましたが、それに公認会計士がどう関わってくるかはまだ分からなかったため、大学でも公認会計士試験に合格するための勉強をしながら自分の進路を考えていました。

大学に入ってから、とても大変な日々が続きました。大学の授業自体は興味深いものも多く、勉強をするにも比較的楽なものが多いですが、経理研究所の勉強は進度が速く量も多いので、ついて行くのがやっとでした。しかし、その勉強の中で、公認会計士が行う仕事の内容もやっと見えてきたので、本気で公認会計士を目指すことができました。大学に

入ってから徐々に勉強量を増やしていき、大学1年の途中で一人暮らしをはじめ、1日10時間以上の勉強をする環境を作り上げていきました。その点で中央大学経理研究所は、勉強することができる環境を提供してくれたので、思う存分勉強に専念することができました。毎日勉強をしていると、精神的につらい日もありましたが、そんな日は、経理研究所の講師陣、経理研究所出身で公認会計士第二次試験に合格している先輩や受験仲間、そして高校時代からの友達に随分と助けてもらいました。特に、高校時代からの友達や、Y校出身であり見事に大学3年で第二次試験に合格した2年上の先輩にはとてもお世話になりました。

通常、現行の公認会計士試験とは、第二次試験のことをいうのですが、第二次試験を受験するための要件に、大学生の場合は大学の2年間で44単位以上取得していることというものがあります。しかし、私は大学生現役中に第二次試験を受験するチャンスを一回でも増やしたかったので、受験制限のない第一次試験から受験することにしました。ところが第一次試験は、国語・数学・外国語（英語）・論文の4科目であり、私が苦手とする一般科目ばかりで、なかなか勉強がはかどりませんでした。しかし、私は周りの受験仲間に支えてもらい、何とか受験する態勢を整えることができました。

大学1年の1月に公認会計士第一次試験を受験しましたが、受験後の感覚は今ひとつ。自分の不合格を信じて見に行った合格発表の時に、自分の合格を知って、かなりびっくりしてしまいました。第一次試験の合格を諦めていて、第二次試験の勉強になかなか手が付かなかったので、第一次試験の合格には焦りました。第一次試験の合格発表の日からは本気

で勉強しました。その結果、2年の5月に受験した第二次試験短答式試験にも無事に合格することができました。そして、経理研究所の講師やスタッフの方々に励まされ、論文式試験までの期間も短答式試験に合格した勢いを持続し、7月・8月に論文式試験を受験しました。今まで自分がやってきたことを信じて受験することができたので、第二次試験論文式試験の合格を勝ち取ることができました。

私は現在大学3年生で、中央大学経理研究所のスタッフをしており、後輩達の公認会計士試験の受験指導をしています。スタッフになってからも、受験指導をしつつ、自分がわからない所があれば勉強をするのですが、高校時代にみっちり教わった簿記の知識が相当に役に立っていると感じます。高校で教わった簿記は、公認会計士や税理士等の専門職の導入になるとともに、これらの根幹を支えるものであるとも実感しています。今授業で簿記を勉強している商業高校生には、しっかりと勉強して将来に役立ててほしいと願っています。

私は、公認会計士第二次試験には合格しましたが、今の自分に満足するつもりはありません。将来は公認会計士として、企業の財務諸表の適正性を調べる監査の仕事等をしたいと考えていますが、他に面白いものが見つかれば、更に勉強を積んで自分の可能性を広げていきたいと考えています。今は自分の可能性を少しでも広げるために、大学では税法（主に法人税）を勉強しています。

最後に、自分の好きな道に進むことを快く引き受けてくれた私の両親には、本当に感謝しています。両親が私の商業高校進学を快諾してくれたからこそ、今現在やこれからの可能性を見据えることが出来ていると思っています。